段蔵（だんぐら）の分布と地形

33期生

Ⅰ　テーマ設定の理由

ぼくの住んでいる枚方市は、昔から、淀川の洪水になやまされてきた。そして洪水にそなえて、江戸時代末期には段蔵というものがつくられだした。この段蔵というのは、倉の下に石垣を積み重ねたものであるが、ぼくの家の近くの渚というところにも、それが残っている。それを見ていると、それぞれ石垣の高さが場所によってちがい、地形との関連性があるかを調べてみたくなった。

Ⅱ　研究方法

〔1〕 段蔵とはどういうものかを資料から調べる。

（資料：地理学報６号《昭和30年》から）

〔2〕 段蔵の石垣の高さと、その場所の高さを調べて、何か関連性がないかを考える。

・これは、「土地の高いところでは、水害による被害が少ないので、石垣の高さが低いのではないか」という推測が正しいかどうかを調べるためのものである。

〔3〕 何軒かの家の人に、段蔵について次のようなことを聞く。

①洪水のときのようす ― 段蔵をどのように利用したか。

②段蔵の中はどうなっているか。

③現在はどのように使っているか。

※　研究対象は枚方市の渚、磯島、出屋敷の各町村とする。

Ⅲ　研究結果

〔1〕 段蔵について

①段蔵とはどういうものか

段蔵とは水郷低湿地域（川や海に沿った土地の低い地域）で川などの氾濫による家屋浸水に備えてつくられたもので、石垣を積んだその上に倉をつくったものである。石垣を積むのは、地盤を堅くして、また洪水のときの水位より高くするためで、石垣を２～10段積んである。（石垣の高さは１段が20cmほどなので、段蔵の石垣の高さは0.4ｍ～２ｍほどになる）

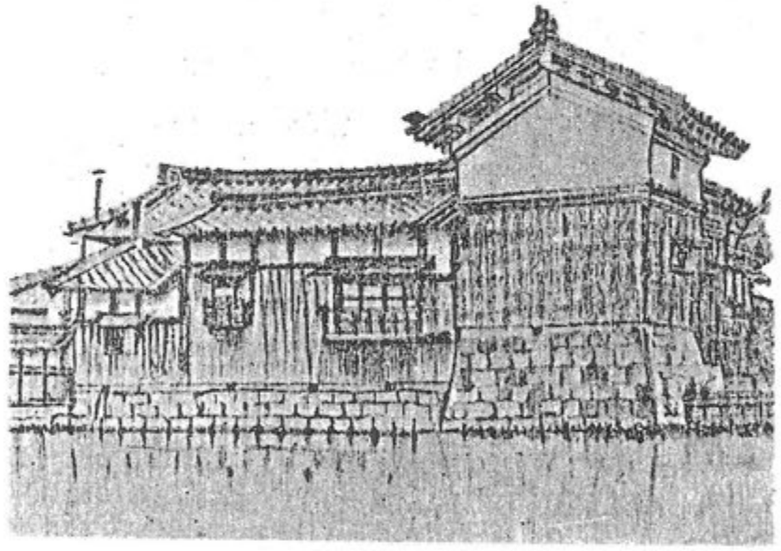
②段蔵の構造

段蔵はすべて木造瓦葺（かわらぶき）二階建である。瓦葺にするのは、雨漏を防ぐためで、また二階建にするのは、１階が浸水した場合でも比較的安定しているからである。

そして、この段蔵は屋敷内では、たいてい北西の隅にある。これは、淀川の流れる方向からくる迷信とか、日照の関係とか、冬の北西の季節風をさけるためとか言われている。

③段蔵の分布

段蔵は、淀川やその支流の川（特に天井川）に沿った地域で見られる。



[2] 石垣の高さと地形

調査結果① ― 渚町

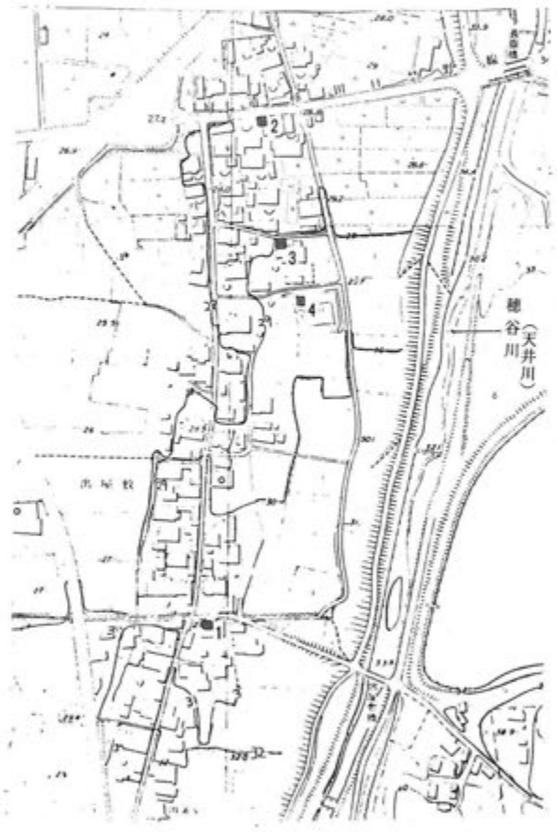
番号	所属している町	標高(m)	石垣の段数	石垣の高さ(m)	屋敷内における位置	その他
1	渚本町	9～10	3	0.8	不明	表面がプラスチック
2	〃	〃		(1.0)	北西	石垣のかわりにコンクリート
3	〃	〃		(1.0)	南西	〃
4	〃	〃	3	0.9	北西	
5	〃	〃	不明	(1.3)	〃	
6	〃	〃	〃	(0.5)	南東	
7	〃	〃	〃	不明	不明	
8	〃	〃	〃	〃	〃	
9	〃	〃	〃	0.6	北西	
10	〃	〃	4	1.0	北西	

番号	所属している町	標高(m)	石垣の段数	石垣の高さ(m)	屋敷内における位置	その他
11	渚本町	9～10	4	1.3	北西	
12	〃	〃	不明	(2.0)	不明	家全体が石垣の上にある
13	〃	〃	〃	(0.7)	北西	
14	渚元町	〃	2	0.8	〃	
15	〃	〃	3	0.8	〃	

※石垣の高さは実測したが、( )のものは目測

標高は地図の等高線により判断した

調査結果② ― 出屋敷町



番号	所属している町	標高(m)	石垣の段数	石垣の高さ(m)	屋敷内における位置	その他
1	田口出屋敷元町	30～31	4.5	1.25	北西	
2	〃	28～29	1.5	0.6	〃	
3	〃	29～30	3	0.9	〃	
4	〃	29～30	不明	不明	〃	

土地の高さ（標高）は1m間隔でしかわからないのではっきりしたことはいえないが、土地の高さと段蔵の石垣の高さとは関係がないと言えるのではないか。

また、渚町では標高10m以上の場所には段蔵がないことから、洪水のときの水位が標高で10m未満であることがわかる。出屋敷町の場合はデータが少ないのでよくわからない。

〔3〕 段蔵の利用のしかた、中の構造

◦渚町－15（家の人の話しをまとめたもの）

「このあたりは、よく水につかるので石垣の上に離れと倉を建てたのだろう。昔から洪水のときは離れや倉の中に逃げこんだ。離れのほうはふつうの部屋として使っている。また、倉は一般的なもので、中には日常使わない家具、食器、ふとんなどがはいっている。石垣の高さは1mほどだが、この上までは水がこなかったようだ」

上にあげたような話が一般的だった。次に、例外ともいえるような話をのせておく。

◦渚町－3

「倉はむかしからあるものだが、以前は地面にそのまま建っていた。しかし、川があふれるとすぐ水につかるので、2年ほどまえに土台を高くしてもらった。倉の中には昔の食器や書類などが入っている」

このことから、今でも段蔵は大切なものであるといえる。

〔4〕 磯島村の段蔵

磯島村は淀川の堤防のすぐ横にある20軒ぐらいの小さな村である。ここは土地が低いため、洪水の被害が一番大きかったところだ。とうぜん、段蔵もたくさんあるだろうと思っていたが意外と少なく、2軒しかなかった。不思議に思って、この村の中にある「正光寺」で聞いてみた。

それによると「洪水のたびに家が流されてしまい、段蔵をつくるような財力をもてなかったらしい」ということだ。

このことから、段蔵をつくるにはある程度の資力がいることに気がついた。

〔5〕 段蔵と財力との関係

資料から

段蔵をつくるには費用がかかる。このため、段蔵があるか、ないか、また石垣の高さなどは、その家の資力（どのくらい、費用をかけたか）に左右される。これは、段蔵の広さについても同じようなことがいえる。

Ⅳ 結　論

〔1〕 段蔵と地形との関係

段蔵は、川が氾濫したとき、浸水の被害を受ける地域にある。

〔2〕 段蔵の石垣の高さ

石垣の高さはその倉をつくった人の資力差によって左右され、土地の高さとはあまり関係がない。

〔3〕 段蔵の用途

昔から水害のたびに、逃げ場となっていた。現在は、昔の食器や家具、書類、ふだん使わないふとんなどを入れている。

※段蔵は「段倉」と書く場合もあるが、どちらでもよい。この自由研究では一応「段蔵」に統一した。

Ⅴ 総　括

あまり知られていないことがらについての研究なので、何を調べたらよいのかが、わかりにくかった。いろいろな場所にいって調査したわけだが、時間をかけたわりには結論が少なく、はっきりと出なかったので残念だ。しかし、研究というのはこんなものかもしれない。

この研究によって、昔の人の生活やものの考え方、知恵などが、わずかながらも理解できたことはよかったと思う。今年対象とした地域よりも南の、寝屋川市、守口市のほうが、段蔵が多いようなので、来年は範囲を広げてやってみたい。

・参考文献　「地理学報6号」
「郷土枚方市の歴史」　枚方市発行

・使用した地図　1：2500　大K－7－2　大阪府発行
1：2500　大K－7－5　大阪府発行
1：2500　大K－7－6　大阪府発行